

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370101917
法人名	有限会社 快互
事業所名	グループホーム都南太陽荘
所在地	盛岡市津志田中央二丁目3番20号 (電話) 019-639-7140

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成19年10月9日	評価確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	10月	4日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	17 人	常勤	14 人,	非常勤 4 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	12 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(社)栃内第二病院、松館歯科医院、瀬川歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道に近い住宅街に位置しており、買物などにも便利な場所にある。グループホームの建物は、鉄筋コンクリート造りではあるが一步中に入ると、天井には天窗があり光を取り込みながら外の天気も感じることが出来る。また室内は木を多く使うことでの暖かみのある環境がある。利用者家族や来客が頻繁に訪れ、立ち寄り易い人間関係、空間作りをしている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の自己評価および外部評価等を受け、特に栄養バランスに関して献立を栄養士に見てもらうことなど積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>より良いサービス提供や支援を続けていくための目安と考え、自らを振り返ると共に質の向上の為に、大いに活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回実施しており、運営推進会議組織の会長には利用者家族の代表が就任している。事前に議事録を送付し、当日の意見交換がスムーズに行くための工夫がされている。会議のための委員の協力体制も窺えた。主な検討内容等は利用者の状況についてやエスケープ対策等について、また地域との関わりについてなどである。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見、苦情を汲み上げるため、玄関前に「ご意見ポスト」があるが、ポストには苦情がきたことがない。家族会の意見交換の機会があることなどで、事業所は柔軟対応している。家族からの要望等があれば事業所で検討し、出来る限り応えていく体制でいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の自治会に加入するなど積極的に地域との交わりを深めようと努力している。事業所からの積極的なアプローチを大切にし、民生委員の協力のもとに、地域の茶話会への参加(職員)や「ぴーちくばーちく展」(地域の文化祭)への利用者の作品展等も行っている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前はユニットごとの理念も作成したことがあるが、現在は、グループホームとしての理念を掲げ、思いやりや感謝の気持ち、また出会いの気持ちを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を踏まえ、毎日の朝ミーティング時に確認し合い、日々の支援に活かしている。責任者やリーダーが中心となり「思いやり」「感謝の気持ち」「出会いの気持ち」を意識し、充実させていこうというスタッフ間での再確認が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会に加入するなど積極的に地域との交わりを深めようと努力している。事業所からの積極的なアプローチを大切に、民生委員の協力のもと、地域の茶話会への参加(職員)や「びーちくぱーちく展」(地域の文化祭)への利用者の作品出展等も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の自己評価および外部評価等を受け、特に栄養バランスに関して献立を栄養士に見てもらうことなど積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施しており、運営推進会議組織の会長には利用者家族の代表が就任している。事前に議事録を送付し、当日の意見交換がスムーズに行くための工夫がされている。会議のための委員の協力体制もうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域や市町村に対しての様々な働きかけを行い、市の担当者も、盛岡市内のグループホーム「さくらの家」と交流訪問するなど、市との連携も見えている。</p>	○	<p>事業所からの働きかけにより、関係市町村は連携体制があると思われるので、今後は運営推進会議のメンバーに市町村担当者も加わって貰うことで、より密接な連携を図っていくことに期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭に関しての報告(月1回請求時等)はもとより、面会や来荘時、電話で利用者の状況をお話したり、情報を得たりしている。また、3ヶ月に1回は各利用者のそれぞれの担当者が、家族に手紙を書いている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、苦情を汲み上げるため、玄関前に「ご意見ポスト」があるが、ポストには苦情等がきたことがない。家族会の意見交換の機会があることなどで、事業所は柔軟対応している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動・離職での利用者への影響を考え、引継等はおおよそ2ヶ月前から時間をかけて行うようにしている。大きなトラブル等は今まではない。基本的にあまり異動等がないようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自己評価にもあるように職員の“段階に応じて”各種の外部研修等に参加させており、職員も教育(研修等)を受けれる環境を大切に考えている。現場での実践を踏まえて職員を育てるチームワークが窺(うかが)えた。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会のブロック活動もさかんで積極的な交流研修等を行っている中で、管理者は「研修委員」としてその取り組みの中心として活動もしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	センター方式を活用し、利用者と向き合いながらケアを行っている。本人や家族、また利用者を取り巻く色々な話を聞くことにより、個々に合わせた馴染みの関係を作り上げていくことに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い、まずは話を聞くことを大切に日々過ごしている。日常はそれぞれ思い思いの自由な時間を過ごして貰うことを中心とし、穏やかに何気ないサポートに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や、多くの人の情報からそれぞれの思い等を汲み取っている。生け花をされる方にはホーム内の装飾用に活かしてもらったりしている。外出支援は特にルール化されず、その日の気分に合わせて対応するように柔軟にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	グループホーム協会としてセンター方式を勧めていることもあり、活用している。多くの人からの情報収集に基づき、その人に合った介護計画を作成されている。	○	利用者本位の介護計画作成のための多くの情報を細かくまとめられており個別ケアへの積極的な取組が感じられた。それを利用者ごとに、計画・評価・経過記録と、一連のものをまとめて書類整理(綴り込み)したほうが、個人の経過が見やすいように感じるので今後、書類保管等について検討して欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行っている。見直し時は、カンファレンスにより意見交換を行い、家族や関係機関にも相談後、必要に応じて行っている。カンファレンス、全体会議録等、帳票の確認。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助については基本的には家族同行をお願いしているが、状況に応じてホーム職員による通院介助も行っている。その場合には経過報告、薬等(家族へ)の報告をしている。ご家族も伴い、矢巾太陽荘へ民謡ショーも観に出掛けた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の内科医が好意により往診してくれている。緊急時の対応も行ってくれたり、冬場についてはインフルエンザ予防接種も対応してくれている。日赤病院等も緊急時には対応してくれている。歯科医師については週1回ペースで来荘し診てくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	勉強会はしているが、現在のところ希望者はいない。今後できる限り希望に沿って行きたいと思う。気持ちはあるが、職員全体や体制として、「看取り」についてまだ不安が残っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、同意書を取ったり、随時家族等に確認し、慎重な取扱いをしている。利用者個々の羞恥心については、「羞恥心マニュアル」等に基づき、その人の誇りを傷つけることのないよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を尊重して自由に過ごしてもらっている。決められた日々の行事は特には決めず「個人」の好きなことをしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは自分から、片付けや台拭き等をして貰っている。調査時には、季節の柿が昼食に出ていた。決められた献立のほか、その日の気分でメニューも変えることが出来る。また、知り合いの水産業者から協力を得て、旬の新鮮な魚が食べられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでもお風呂に入れる。個々の希望を尊重して清潔で、気持ちよくいられるよう支援している。1人でも入る方もいるが、ドア越しの状況確認(音等)に気を配りながら安全にも注意している。主に15時～18時頃に入浴している。	○	プライバシー配慮の基本マニュアル(羞恥心等について)も用意されており、尊厳に留意していることがうかがえる。入浴判定基準等一般的な数値基準についても盛り込むと、なお安全性が保たれよいと思われる。今後の取り組みに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	2ユニットあり、それぞれのユニットで平均的な介護度が違うので、それによっても楽しみ方の切り口は違っている。創作活動として作成した作品等を地域の文化祭に出展して創る喜びを味わうことや、家族からの聞き取りにより知り得た情報(野球をラジオで聞くのが好き)を実践していきたいと考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段の食材等の買物は月・水・金に行っており、職員からも利用者へ声かけをし希望者は同行する。新聞の折り込みチラシなどでイベント情報を利用して出掛けている。七夕祭りやチャグチャグ馬コ、花火大会も見学している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないことでのケアが行われている。玄関の正面に事務室があり見守り等で様子をうかがうことが出来る。居室にも鍵を掛けないで対応しているが、(居室に)施錠したい利用者もいるので夜間の居室施錠時には就寝後に巡視小窓での確認や合鍵等で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回グループホームだけで避難訓練を行っている。民生委員の協力もあり、自治会(地域)へ呼びかけもしているが現在までのところ、参加は得られていないが、今後も呼びかけしていく。夜間想定訓練も持っている。地震・災害対応マニュアル等についても備え付けあり。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の確保については、一日1.5リットル目標に支援している。栄養摂取についても、献立を栄養士に見てもらいなどの方法で、利用者の栄養バランスについて嗜好も踏まえ、気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が吹き抜けで、採光がよい共有空間となっている。この日はお天気で、きれいな雲が見えていた。カレンダー、時計、花や写真も程よく飾られてあり、明るく自由に落ちついて過ごせるスペースが作り出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇の持ち込みをされている利用者もいた。そのほか、馴染みのものとしてテレビや、自身で作った彫刻作品、テーブル等を置いている方もいた。また、家族の写真や自身で塗ったぬりえ等も飾るなど、思い思いの居室が見受けられた。		